

東海道五十三次 27 番目の宿場



令和7年6月26日

袋井市長定例記者会見資料

企画部デジタル政策課・産業部農政課

未来の農業は共創から「2961スマート農業プロジェクト」

～農業をテーマにリビングラボによる社会課題解決モデルが総務省事業に採択～

◇本プロジェクトは、開かれた共創の場であるリビングラボを設け、実際に農業に携わる人々と、企業、大学、金融、行政などが一体となり、「デジタル×共創」で農業を取り巻く課題の解決に取り組む。

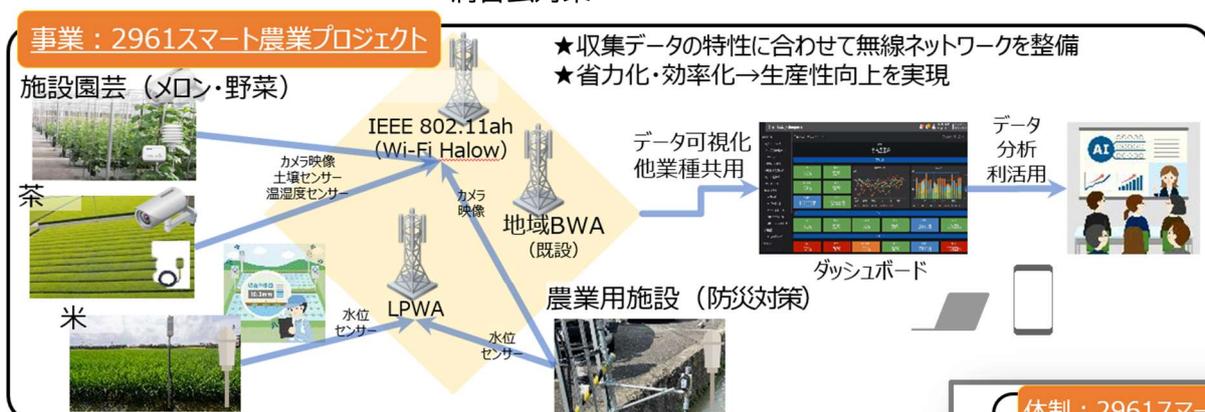
◇総務省「地域社会DX推進パッケージ事業」の採択を受け、^{エルピーダブリューイー}LPWAや^{ワイファイ}Wi-Fi ^{ハロー}HaLowの無線通信技術を活用し、米・茶・メロンの栽培をリモートで行える仕組みを構築、農作業の省力化と生産性向上を目指す。

◇本事業は、ふくろい産業イノベーション推進協議会が進めるリビングラボ研究事業にも位置づけ、リビングラボの手法を用いて、気候変動による記録的高温が生育に与える影響分析や遠隔監視用カメラ設置などにより、高温耐性を持つ品種開発による生産性の向上や点在する農地の一元管理による省力化など、農業イノベーションを目指す。

【概要】

- 1 事業名 農のあるまち袋井「2961スマート農業プロジェクト」
- 2 事業期間 2025年（令和7年）8月～2026年（令和8年）2月
- 3 事業費 2,000万円（2025年度（令和7年度）6月補正予算に計上）※国費1/2
- 4 事業内容

- (1) 米：水田や農業用施設のリモートセンシングによる節水、省力化
- (2) 茶・施設園芸（メロンなど）：農業用ハウスや茶園のリモートセンシングによる省力化、病虫害対策



●リビングラボ、LPWA、Wi-Fi HaLow 等については別紙のとおり

5 関係機関

- (1) 農業経営体：市内の米・茶・施設園芸（メロンなど）のモデル農家
- (2) 民間事業者：(株) I I J、(株) 大和コンピューター、浜松ケーブルテレビ
- (3) 大学：静岡県立農林環境専門職大学、静岡理科大学
- (4) 行政：袋井市

体制：2961スマート農業ラボ

袋井市、(株)I I J、(株)大和コンピューター、静岡県立農林環境専門職大学、静岡理科大学、浜松ケーブルテレビ(株)、農業経営体等

- ・官民共創の推進体制
- ・多様な人材の発掘・活用
- ・官民連携のマッチング
- ・高齢農家デジタル活用支援
- ・コト消費（農業体験）
- ・農業体験学習

既存農業関係者 小中高生、大学生 新規農業関係者

【お問い合わせ先】

袋井市 企画部 デジタル政策課 DX推進室（担当：久保田）

電話：0538-44-3106 FAX：0538-44-3150 メール：jouhou@city.fukuroi.shizuoka.jp

ふくろい産業イノベーション推進協議会が進める袋井版「リビングラボ」の概要

▶リビングラボとは、市民主体の新たなまちづくりを進めるオープンイノベーションの手法

▶市民、企業、NPO、行政、大学など、多様な立場の人々が協力し地域課題を解決するため、モノやコトを創出し、市民生活の質(QOL)の向上を目指す

▶行政主体のまちづくりの限界、地場産業や市民活動団体の担い手確保や活動継承が課題

▶リビングラボによる共創のまちづくりを推進し、地域の持続的発展に資する環境整備を目指す

▶「ふくろい産業イノベーション推進協議会」内に「(仮称)リビングラボ研究会」を立ち上げ、本市に相応しいリビングラボを検討し、民間主導の新たなプラットフォームを設立

■リビングラボの定義

社会課題:

組織を超えたレベルでの複雑な課題解決、理想の未来社会・成長軸の実現を推進できない

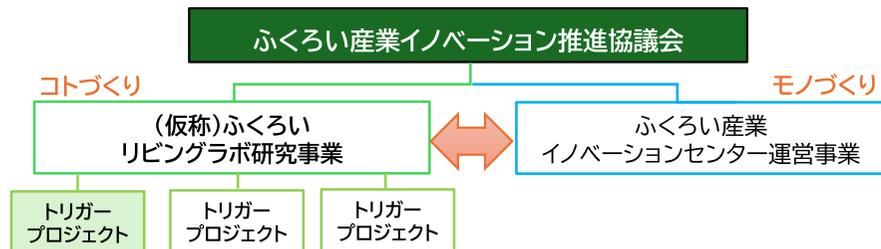


解決策:

多様なステークホルダーによるコレクティブな活動を推進する中間活動体

- ◆ 産学官民、多様な世代・セクターのステークホルダーが参画
- ◆ 実現したい理想の未来増からのバックキャスト
- ◆ 目的やアジェンダを共創し、課題を体系化
- ◆ プロジェクトを組成し、「つながったソリューション」を共創
- ◆ 顔の見えるコミュニティを形成

■推進体制



■活動スケジュール(予定)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
● 協議会総会(事業構想)												
● コアメンバー会議(月例・構想の具体化・体制構築・イベントの企画)												
● 政策勉強会・メンバー募集												
● TPJ参加型ワークショップ(巻き込み)												
● トリガープロジェクト(TPJ)検討												
● TPJ検討												
● スタートアップシンポジウム(2961Lab設置)												

■トリガープロジェクト:「2961(ふくろい)スマート農業プロジェクト」

スマート農業・食(産業・コミュニティ)

テクノロジー、コミュニティによるソリューション等を通じて農業の理想形を実現し、「つくる」「食べる」「楽しむ」が繋がる農の文化を形成する

◆参考

●LPWA(エルピーダブリューイー)

Low Power Wide Areaの略、低消費電力かつ広域・長距離通信を特徴とする無線通信技術。通信データ量は少なくWi-Fiなどに比べ低速ながら、10kmを超える無線通信が可能。

●Wi-Fi HaLow(ワイファイハイロー)

LPWAのひとつで、特にIoTの通信システムとしての幅広い活用が期待される新しいWi-Fi規格。通常のLPWAよりもデータ容量が多く、画像データにも対応可能。

●地域BWA(チイキビーダブリューイー)

2008年より「地域WiMAX」として、デジタルディバイドの解消や地域の公共の福祉の増進に寄与することを目的として導入された2.5GHz帯の周波数(2,575~2,595MHz)の電波を用いた電気通信業務の無線システム。